

日田木青会だより

日田木材協同組合
青壮年会
HITA MOKUSEIKAI

グアム島研修旅行

2月8(木)〜11(日)ーグアム島



グアムまでのフライト時間は約3時間半。時差は、日本時間のプラス1時間。その為、時差ボケはありません。17時頃に空港から外へ出てみると、暑くて2月の日



グアム空港にて(グアム到着。蒸し暑い!)

本との気温差で少し調子が狂いそうでした。グアムは海洋性亜熱帯気候で、年中通じて、温度変化が少なく平均気温は27・5度。一年中ビーチで泳いで暑いですが、我々の住む地域のように猛暑になることはほとんどありません。屋内は冷房がよく効いていて少し寒い…ではなく、かなり寒く感じます。四季は無く乾期と雨季があり、雨季は日本の梅雨とは違いスコールが多いそうです。7月から10月は台風が発生する時期で、2023年5月24〜25日には風速約78m、最大瞬間風速約92mの台風が通過し停電、断水の被害が出たそうです。まだ工事を終えていない場所もありました。4年間コロナの影響で観光客は減ってしまい、徐々に復興し始めた所に、この大型台風が来て、島の営みはかなり変化をもたらしていました。みやホテル、島を巡回する観光用のバスやタクシー数も激減したそうです。島の人口は約17万人、カトリック教徒が多く、住民は、チャモロ人 45% フィリピン人 20% 次いでアメリカ、中国、韓国、日本人が住んでいるようです。グアムの歴史の始まりは紀元前1500年頃で、フィリピンやインドネシアなどの東南アジアから海を渡り移住してきた



歴史資料館入館にてお勉強(グアム島戦)

WER IN THE PACIFIC視察



デッキ材防腐処理加工(左)
めちやくちや曲がっている!

THE HOME DEPOT(右)
巨大ホームセンター、島の人は週一は来てる。

現代では、第一次、第二次産業もありません。研修に行くまでは、南国フルーツのイメージがありました。もちろん果樹園はありませんでした。1521年3月6日、世界一周をしていたポルトガルの探検家マゼラン一行がグアム島を発見。食料、水などをもらい、代わりに鉄を島の人々に対価として渡します。この時代グアムは石器時代のようでした。グアムの名が西洋に知れ渡り、40年後、スペインの探検家レガビスがグアムをスペインの領土と宣言してから、33年間に及ぶスペイン統治時代が始まります。スペイン統治によって、グアムの人々の暮らしは大きく変化し、この時にイエズス会の宣教師団によってカトリック教がもたらされました。その他、農業や畜産業もグアムで始まり、人々は洋服を着るようになっていきました。しかし元々グアムでは先祖と自然を崇拝して暮らしてきたことから「先祖崇拜」を強く禁じたカトリックへの反発も大きくなり、1668年スペイン・チャモロ戦争へと発展していきます。戦いの後、チャモロ人が降伏し、1695年の終戦時には10万人いたと言われるチャモロ人は5千人以下に減ってしまったと言われています。その多くは女性や子どもだったようです。1898年、スペインがアメリカ

の戦艦を沈没させたのを機に、米西戦争が始まります。スペインから島はアメリカへととなります。アメリカになった事でまた、変革や改善もたらされますが、それも1941年日本軍の真珠湾攻撃により終わりを迎え、日本軍の2年7カ月に渡る占領が始まります。島は大宮島と名前が変わります。日本軍はチャモロ人を使い防壁やトーチカ、防空壕などの建設作業を強制していました。1944年、アメリカ軍がグアム島に上陸。日本軍守備隊2万名のうち、戦死者1万8千余名、アメリカ軍も約7千名の死傷者を出し、週間に及ぶ激戦の末、グアム島は再びアメリカの統治下に入りました。この時横井庄一さんと他にいた2人の仲間がジャングルを転々としながら、タロフォフォの滝と呼ばれる場所近くに28年間潜伏ののち、横井さんは帰国。(途中から2人とは別行動をとることになってしまい、2人は生き残る事は無かった)現代ではこの潜伏していた場合は観光名所となっています。1950年にアメリカの自治属領(準州)となり、今日までアメリカ軍の太平洋戦略上の基地として活用されています。戦争時、海や川は赤く染まり、砂浜は戦死者で埋め尽くされていたそうです。(命が尽きる前に喉が渇く為だそ



夕食はタモン湾でサンセットBBQ(乾杯)

うです)今は、とても素晴らしい白と青の景色で、夕陽も美しく、英気を養う場所としてもとても良い所でした。歴史以外で学びを感じた事は、食事の支払いの時に円安を実感しました。食事の時のソフトドリンクは、とにかく甘くてちよっと飲みづらい。アイステイも甘いです。チップマナーに戸惑い、日本円がそのまま使える店があり便利でした。海外研修は当然ですが、法律、ルール、通貨が変わり行くだけでも学ぶ事がたくさんあります。今回の研修旅行でもまた見聞を広げることができ、とても良い研修となりました。ありがとうございました。